



2018年4月 南アフリカ新聞第9号

SABONA

鈴木 壮太

進級・進学おめでとうございます。新しいクラスの仲間との1年間が始まりましたね。わくわくしていたり、少し不安だったり、色々な気持ちが混ざっていると思いますが、良いスタートを切れるように、まずは自分の持ち物に名前を書きましょう！

さて、今回は南アフリカの子供たちがどのように算数を勉強しているのか見てみましょう。日本と違うことがたくさんあります！

長〜い

みなさん、例えば数字の「8」は、どのように読みますか？

そうです、「八（ハチ）」と読みます。

英語では「eight(エイト)」です。

そして、スワジ語は「siphohlongo（シポヒョーンゴ）」と言います。

少しスワジ語だと長い気がします、まだ何とか覚えられそうです。

では、桁が大きくなっていくとどうなるでしょう。

【例 58】

日本語→五十八（ゴジュウハチ）

英語→fifty-eight（フィフティ-エイト）

スワジ語→emashumi lasihlanu nesiphohlongo

（エマシュミ-ラシヒャーヌ-ネシィポヒョーンゴ）

長い！普段スワジ語を使う子供たちも大混乱！みんなどんどん算数が苦手に…。

$58 + 49 = 106$ ←これをスワジ語で言うと…

「ヒャガニ-サエマシュミ-ラシヒャーヌ-ネシィポヒョーンゴナエマシュミ-ラネ-ネソフィ-カグ-マリク-ルネソトウ-パ」となります。

算数セット発見！

なんと教室の片隅で、算数セットを発見しました！アフリカの先生はどのように使うのだろうか、うきうきしながら算数の授業を見ていましたが、結局使われることはありませんでした。日本ではブロックやおはじきなどを使いますが、こちらではそういうものは使わず、先生が口で説明して教えます。「これはこうだからこう！さあ、問題解くよ！」という風に。そして多くの子どもたちはよく理解できず、ぼかーんとするしかありません。でもきちんと問題を解かないと叱られてしまうので、隣の友だちの答えを写しながら何とか終えます。でも残念なことに、隣の友だちも間違っているのであまり意味がありません。なかなか児童が解き終わらない場合は、先生が答えを教えてしまいます。それが、途中のまま終わりにします。毎日だいたいそのような感じです。

算数セットを使ってみよう！

算数セットを使えば、もっとわかりやすい授業ができると思い、先生たちに実際にブロックを使ってもらいながら、算数セットの良さを伝えてみました。今後の授業で使ってくれれば良いのですが…。

そして私自身、2年生の授業では算数セットを使って授業を続けています。段々とブロックの使い方にも慣れてきたため、復習問題を出してみました。私「 $2 + 5$ はいくつですか？」

（児童はブロックを動かして答えを出す→勢いよく挙手をする児童発見！→指名する）

児童「4！！（真面目な顔で…）」

私「え！！（がーん…）」

でも、こういうことはよくあります。数字に慣れていないアフリカの子供たちにとって、算数はとても難しいのです。

